

診療参加型臨床実習のための 医学生の医行為水準策定

現状に関するアンケート集計結果報告

平成28年4月21日

全国医学部長病院長会議
医師養成のグランドデザイン検証WG

1. はじめに

- 平成26年7月、当会議は「診療参加型臨床実習のための医学生
の医行為水準策定」を報告した。本報告は今後の我が国
の医学教育における医学生の臨床実習に際しての医行為に
ついて一定の指針を示しており、その内容は各大学医学部、
医科大学により、自主性と自律性を維持しつつ実践される必
要がある。
- 本アンケートは、報告から1年6カ月後の各大学医学部、医科
大学での現状の実態に関するアンケートを施行した結果を収
録したものである。

【アンケート集計期間】

平成28年1月4日～2月15日

【回答方法】

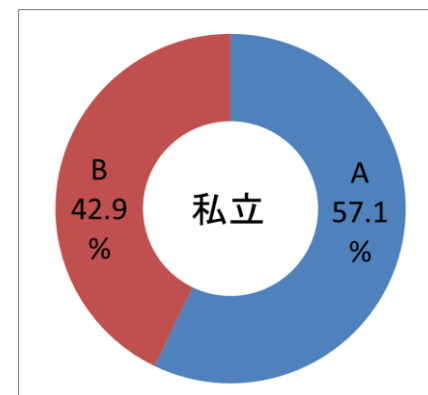
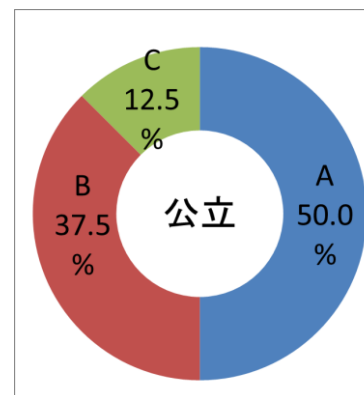
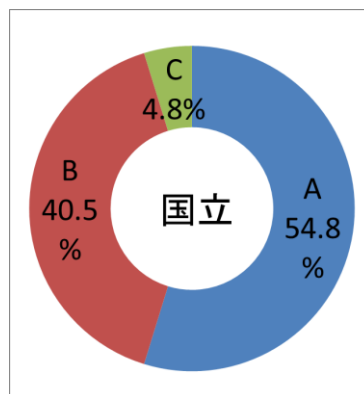
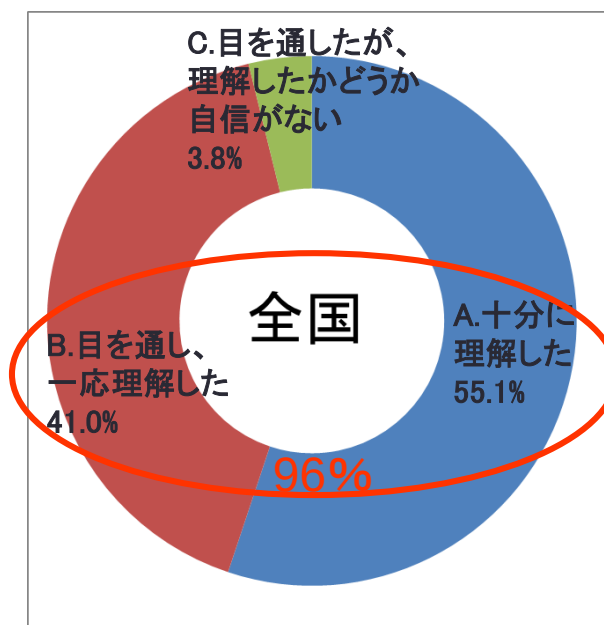
Web上でのアンケートフォーム投稿

【有効回答数】

全国国立・公立・私立大学医学部 80校

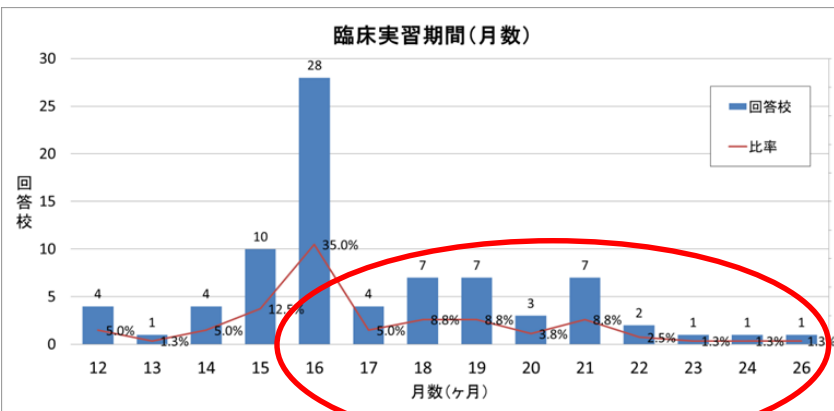
2. アンケート集計結果

I. 「診療参加型臨床実習のための医学生の医行為水準策定」 (以下、本ガイドライン)の内容理解



全国80大学のうち78校が、本ガイドラインが公表されたことは認識されており、その96%にあたる75校はその内容を十分、もしくは一応理解している。

II. 臨床実習カリキュラムと卒業判定(1)臨床実習期間

[illegible]

70週以上(想定)

※本アンケートは月数での回答であるため、夏休みや試験期間等の時期を考慮した実際の週数については別途精査が必要である。

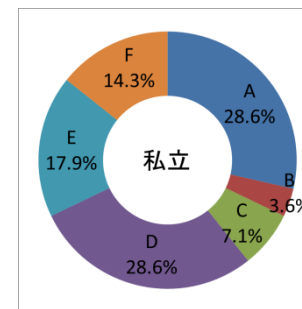
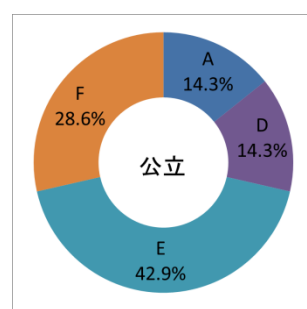
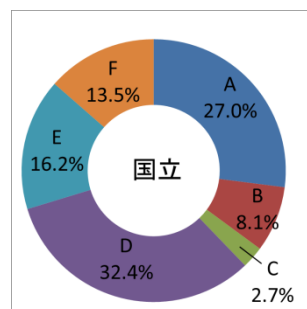
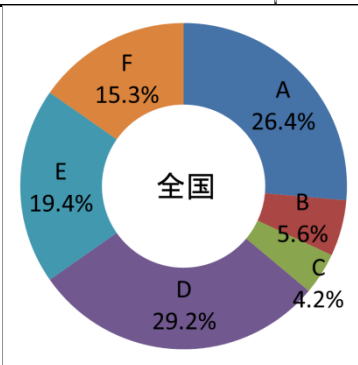
国際基準の70週期間をクリアしていると想定される大学は61大学と国内総数の76%を占める。このうち、5年次4月～6年次7月までの16カ月間と回答した大学が24大学と全体の30%を占める。

II.

臨床実習カリキュラムと卒業判定(2)

臨床実習マニュアルの参考になっている具体的例示

	全国	国立	公立	私立
回答校	72	37	7	28
A 前川レポート(平成3年 厚生省臨床実習検討委員会の最終報告書)	19 26.4%	10 27.0%	1 14.3%	8 28.6%
B 福井・吉田試案(診療参加型臨床実習の実施のためのガイドライン)	4 5.6%	3 8.1%	0 0.0%	1 3.6%
C コア・カリ(平成13年 医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成19・23年改正)	3 4.2%	1 2.7%	0 0.0%	2 7.1%
D 本ガイドライン(P26～27「医学生の臨床実習における医行為と水準」)の例示	21 29.2%	12 32.4%	1 14.3%	8 28.6%
E 大学独自で定めた水準	14 19.4%	6 16.2%	3 42.9%	5 17.9%
F その他	11 15.3%	5 13.5%	2 28.6%	4 14.3%
(再掲)				
D+E	4	2	1	1
A+E	3	0	0	3
A+D	2	1	1	0
AからDへ改訂作成中	1	1	0	0
A+C+E	1	1	0	0

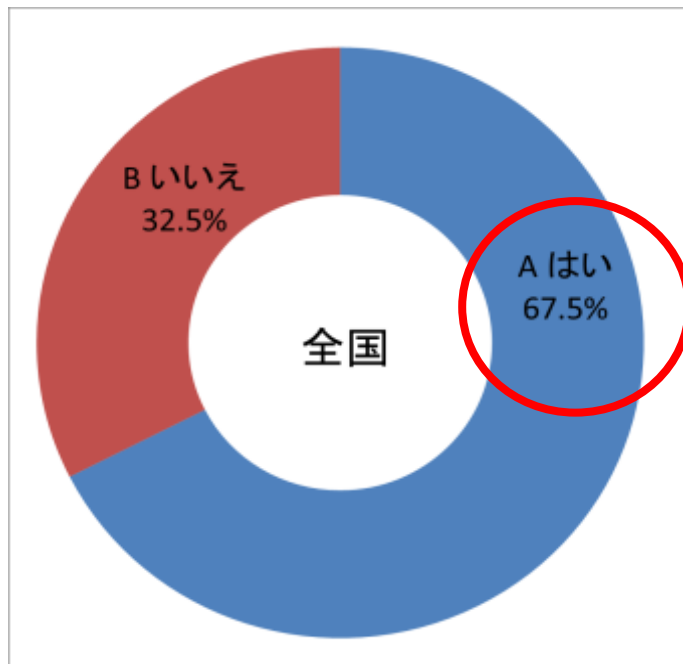


臨床実習における医行為水準の具体的例示として最も引用・記載されているのは、本ガイドラインの医行為水準の例示であり、全国平均で回答72大学中21大学、29.2%である。次いで多いのは前川レポートで大学が全国平均で19大学(26.4%)である。

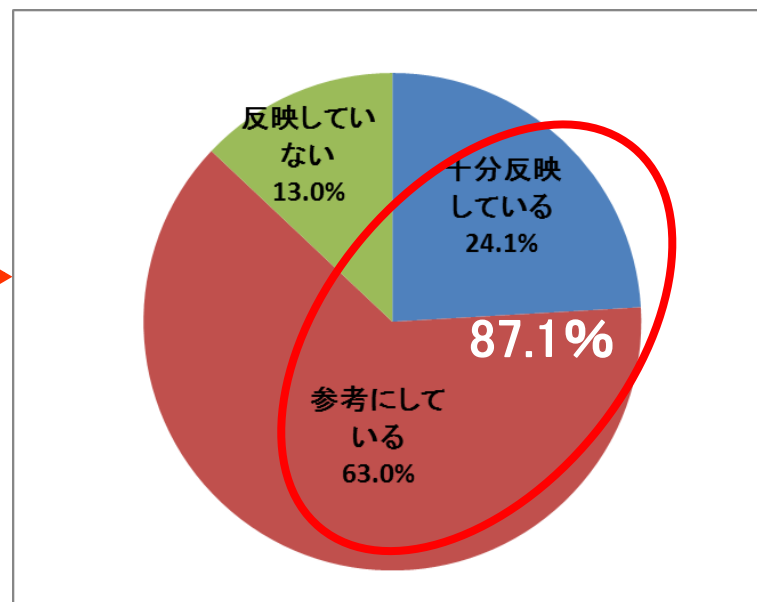
II. 臨床実習カリキュラムと卒業判定(3)

卒業時OSCEの実施と本ガイドラインの医行為水準の活用

卒業時OSCEの実施状況



本ガイドラインの医行為水準の反映

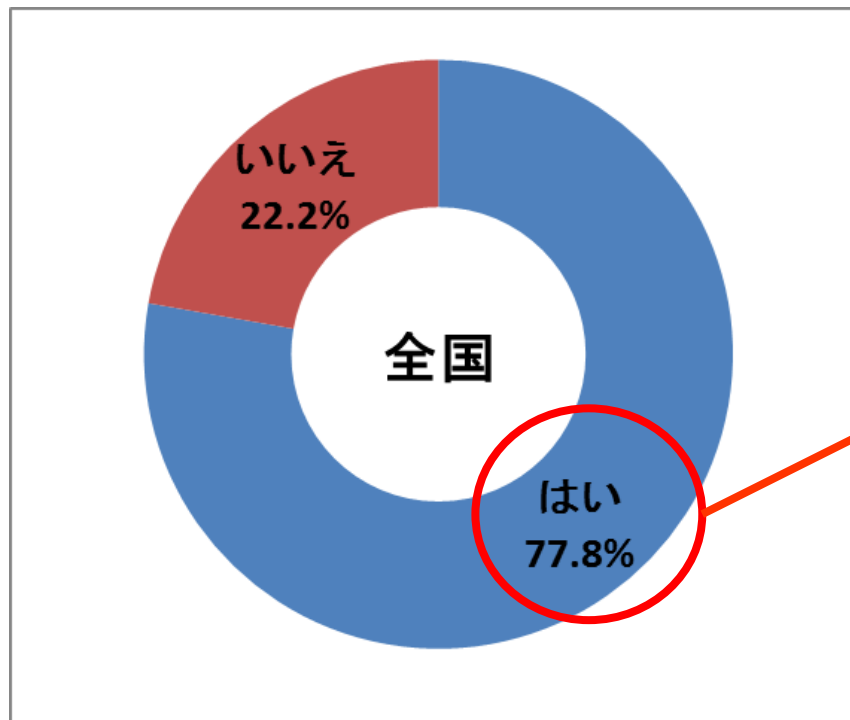


卒業時OSCEは全医学部の67.5%に施行されている。
その際、本ガイドラインの医行為水準は87.1%に十分反映または参考にされている。

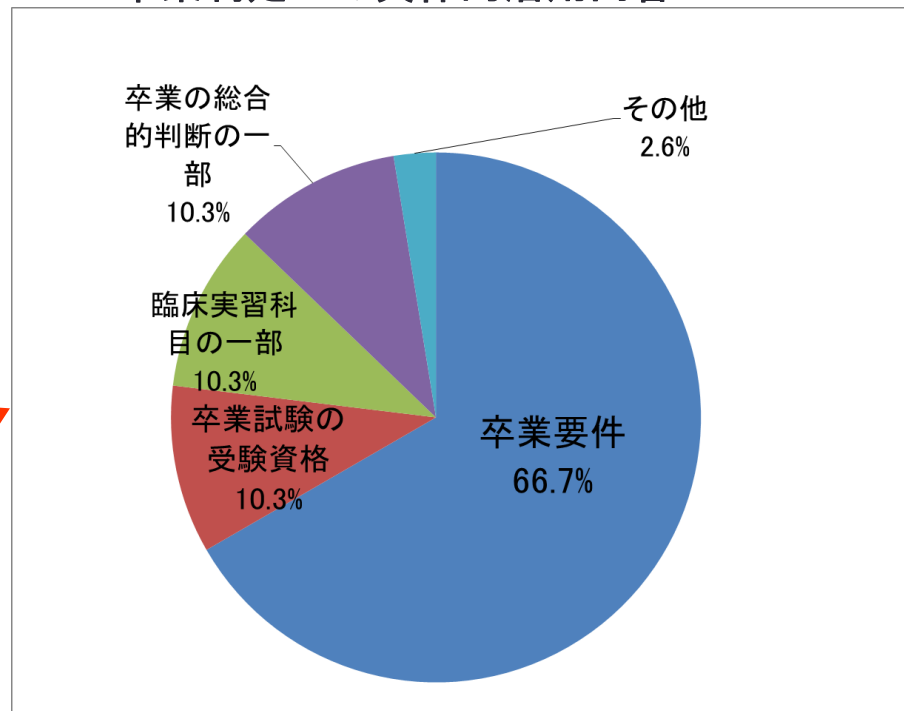
II. 臨床実習カリキュラムと卒業判定(4)

卒業時OSCEの卒業判定への活用

卒業時OSCE卒業判定への活用



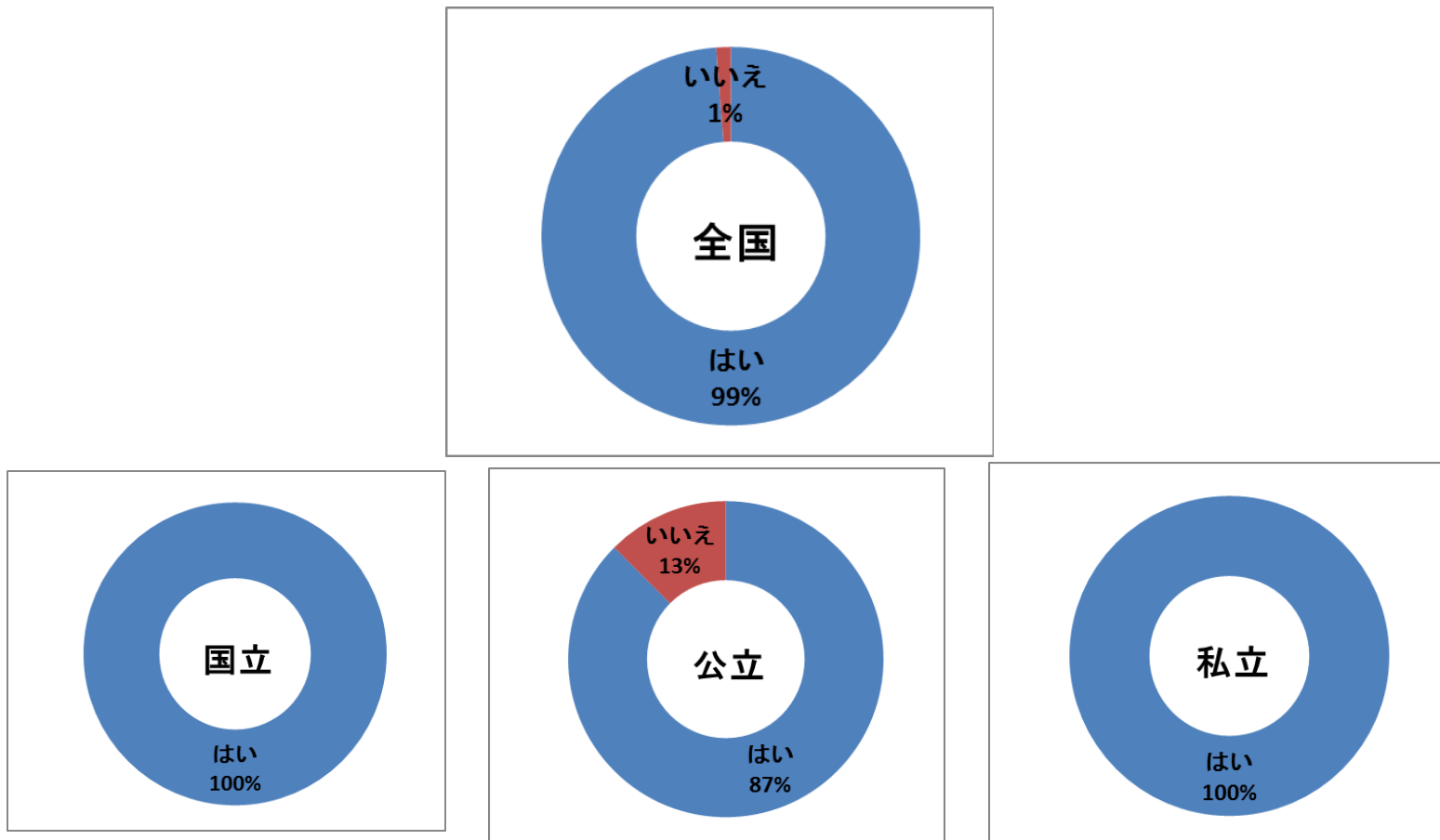
卒業判定への具体的活用内容



卒業時OSCEを実施している大学のうち77.8%が卒業判定に活用しており、具体的には66.7%が卒業要件に、10.3%が卒業試験の受験資格に活用している。

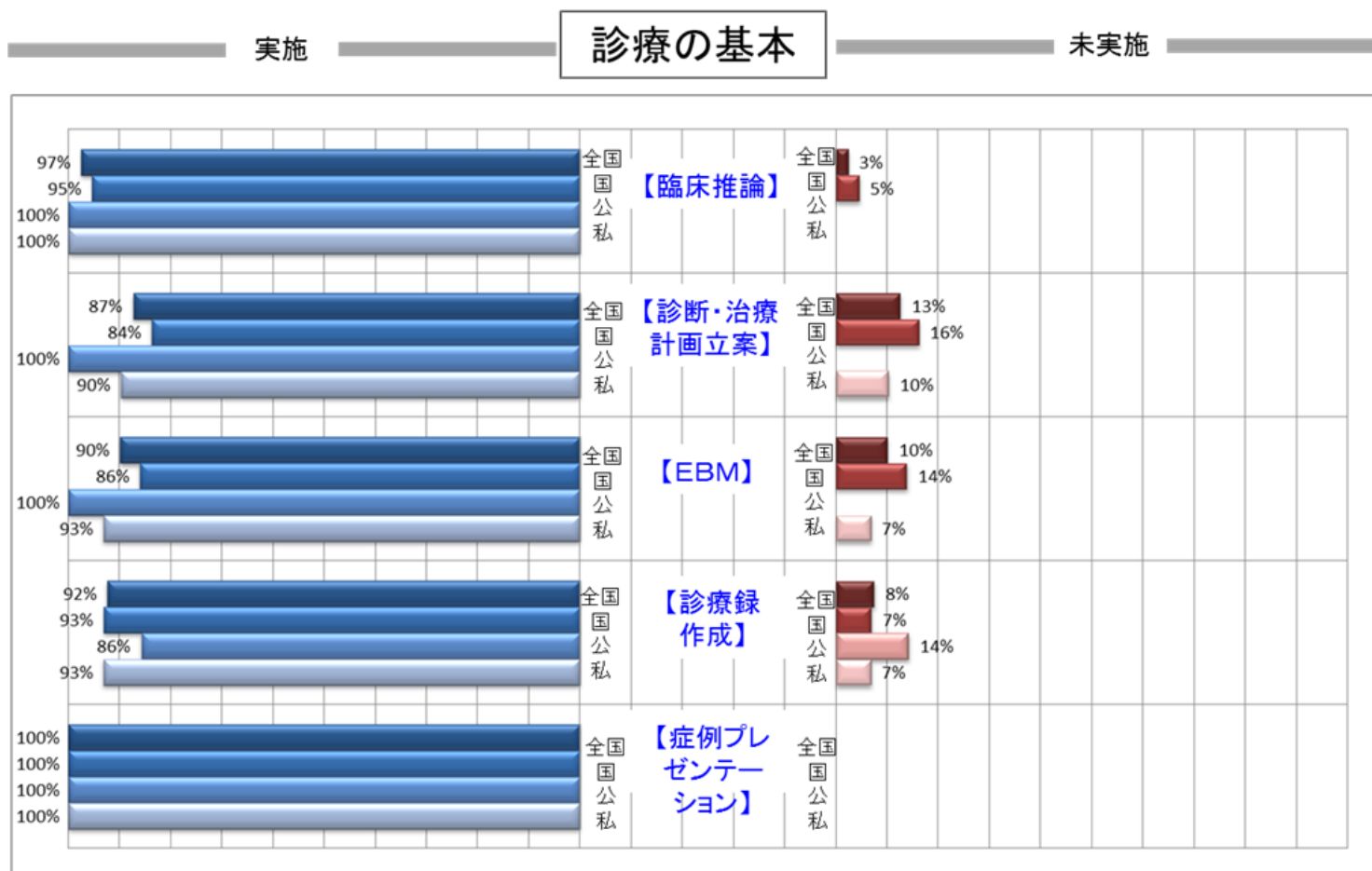
Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(1) レベルⅠ

指導医の指導・監視の下で実施されるべき医行為(レベルⅠ)の実施状況



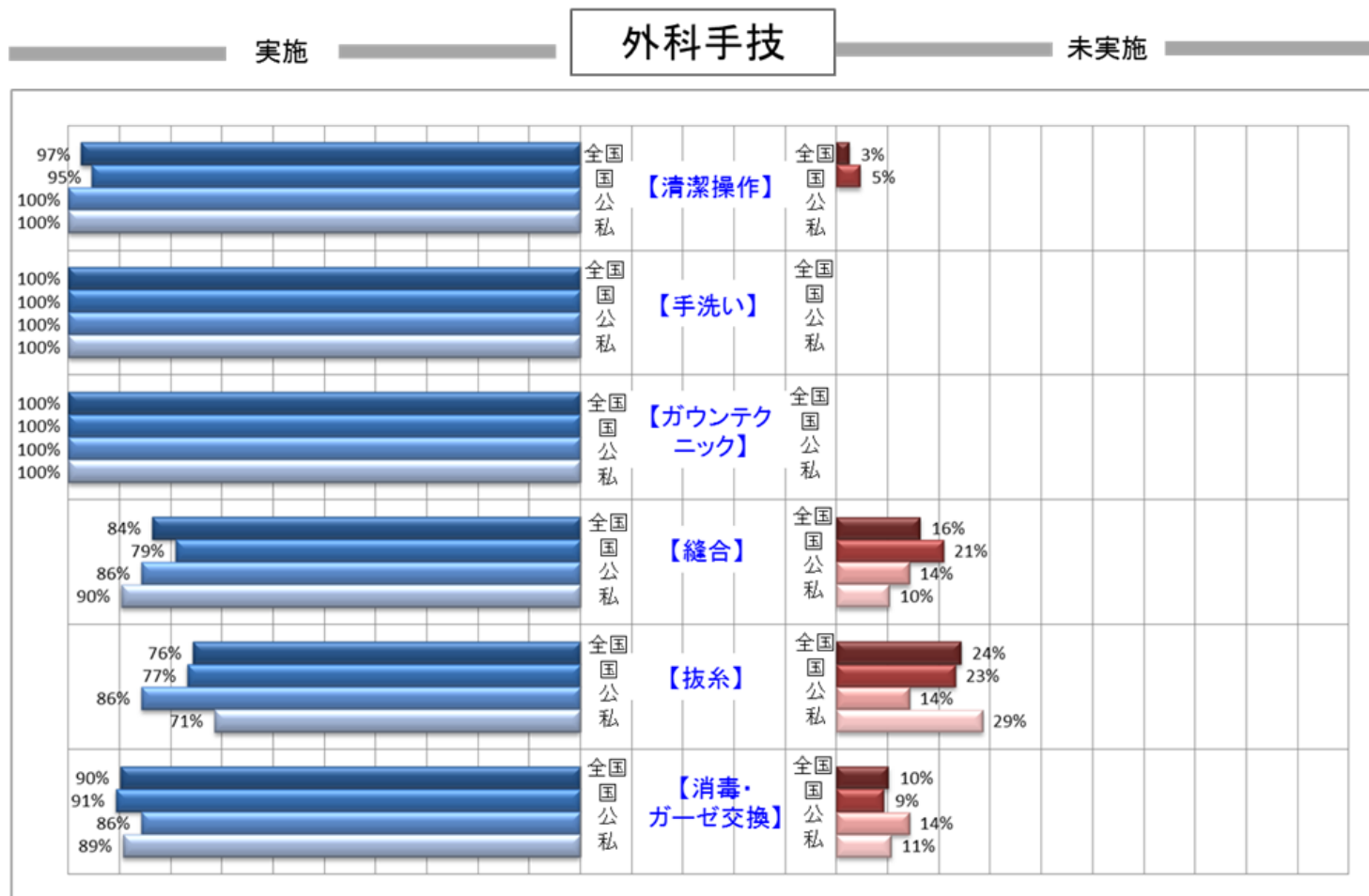
医行為 レベルⅠは国内80大学のうち1校を省き全大学で実施されている。

III. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(1) レベル I



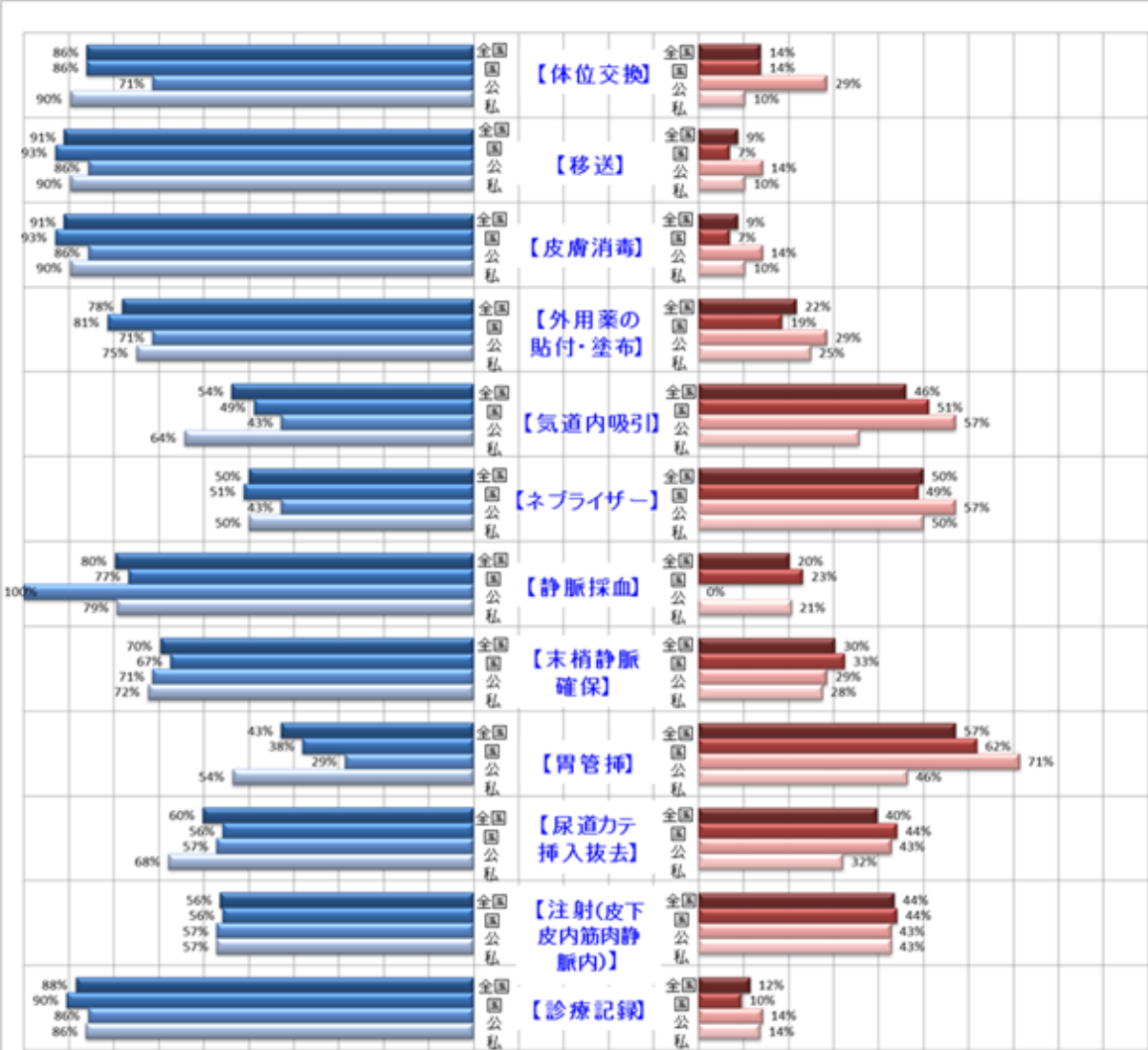
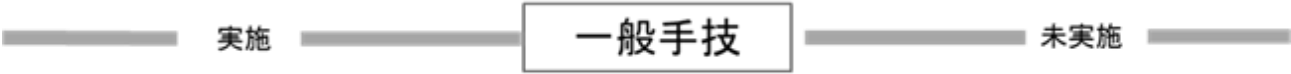
個々の手技の実施状況をみると、診療の基本はほとんどの大学で実施されている。

Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(1) レベルⅠ



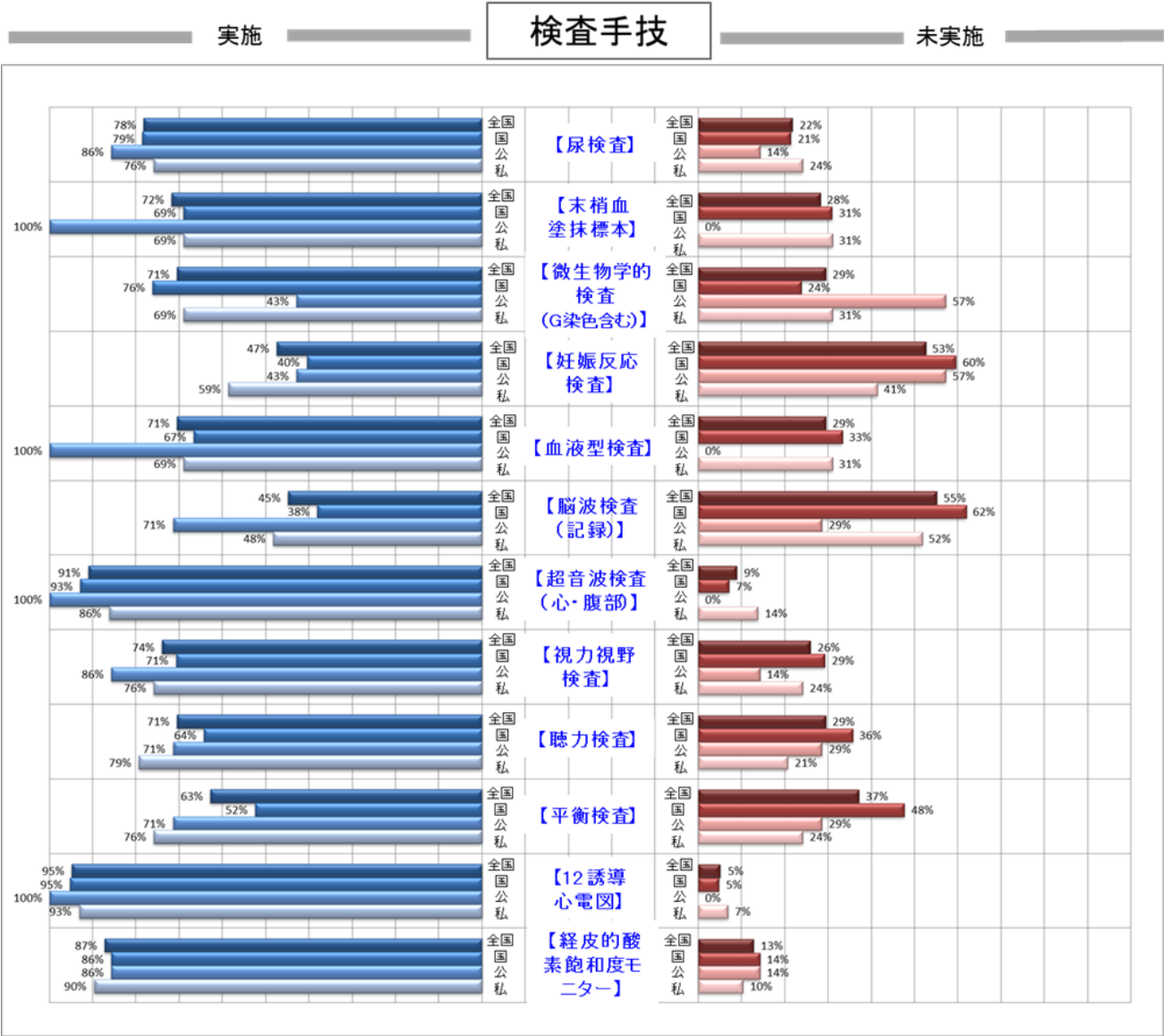
外科手技はほとんどの大学で実施されている。

Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(1) レベルⅠ

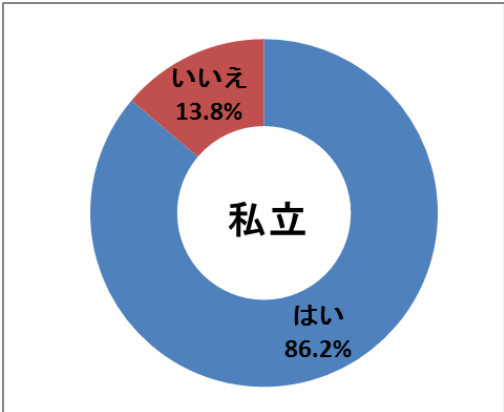
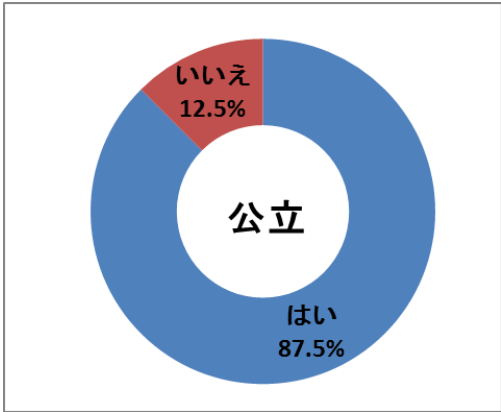
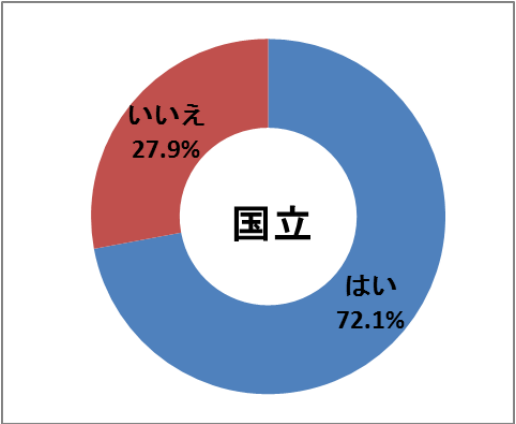
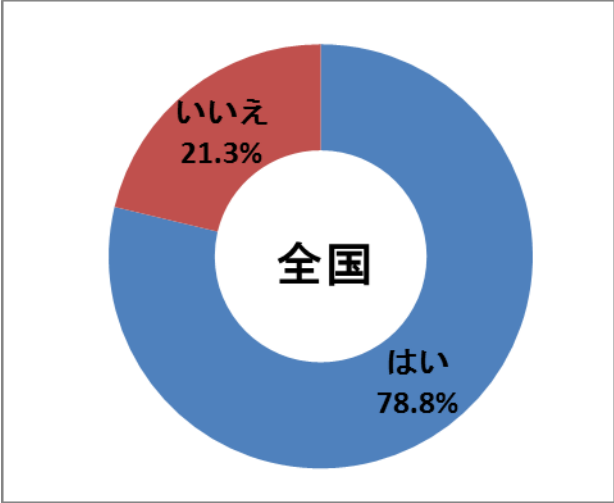


一般手技や検査手技における個々の細目の実施状況には、大きく変動がある。

Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(1) レベルⅠ

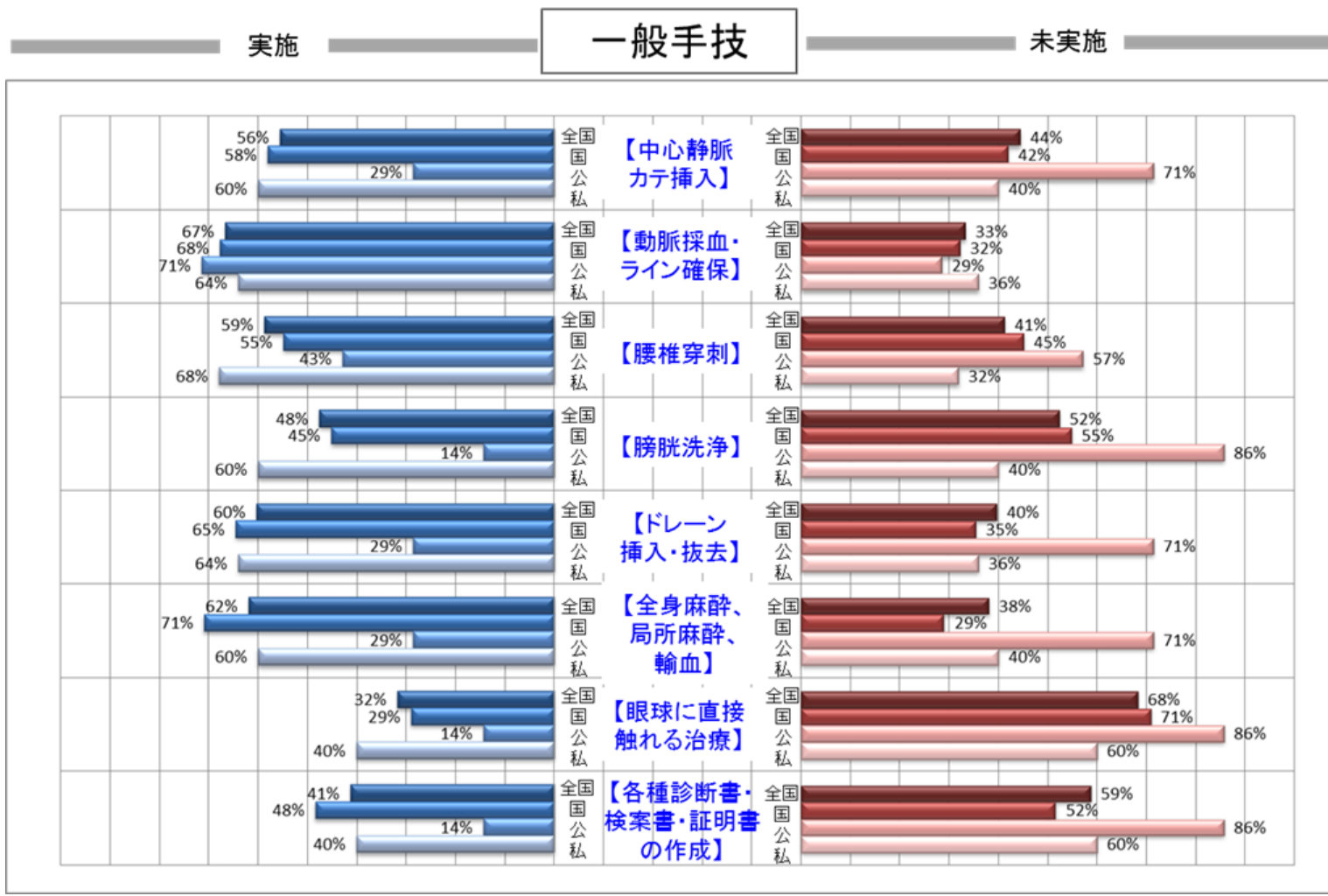


Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(2) レベルⅡ
指導医の実施の介助・見学が推奨される医行為(レベルⅡ)の実施状況



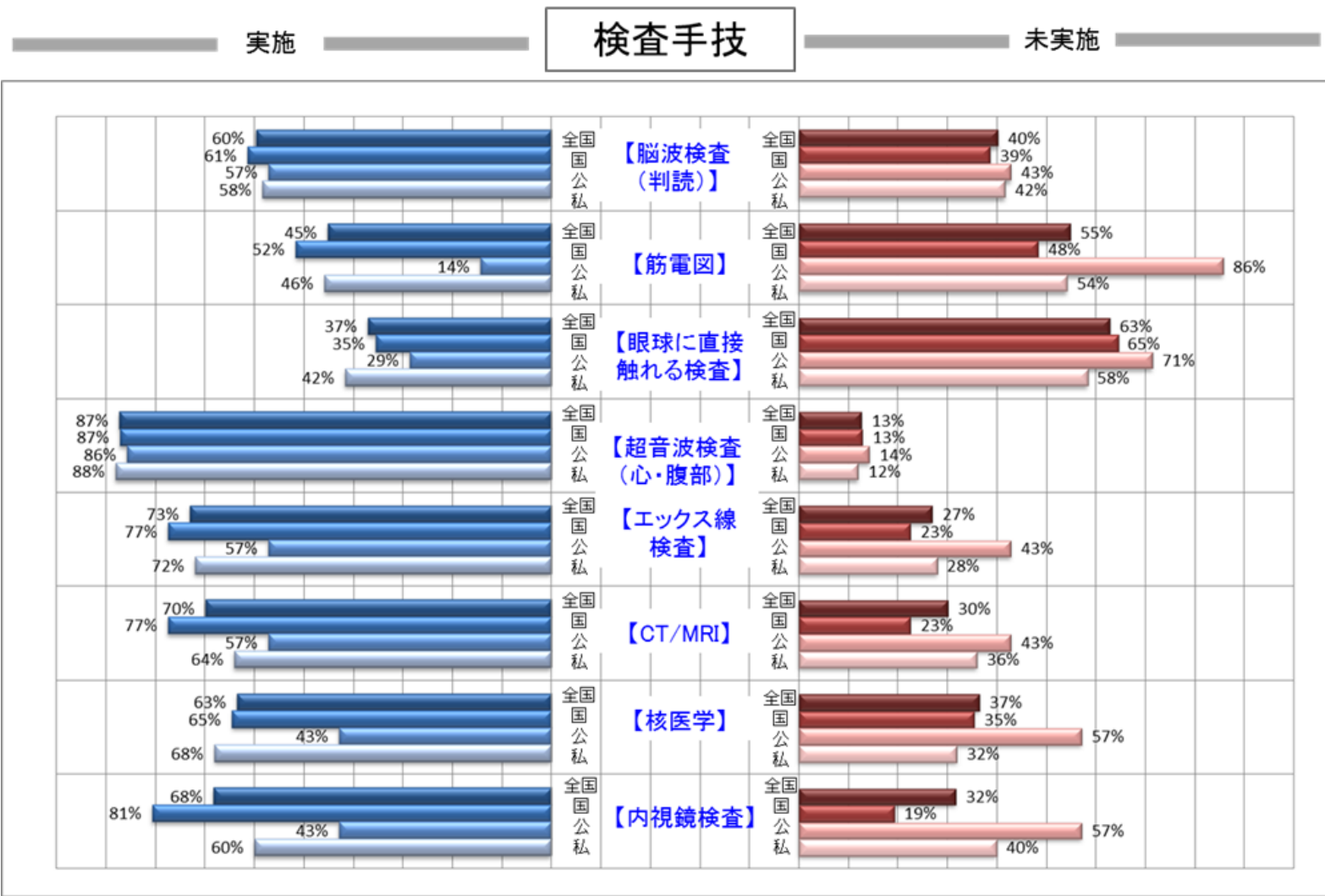
医行為 レベルⅡは全国で78.8%の大学で実施している
(国立:72.1%、公立:87.5%、私立:86.2%)。

Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(2) レベルⅡ



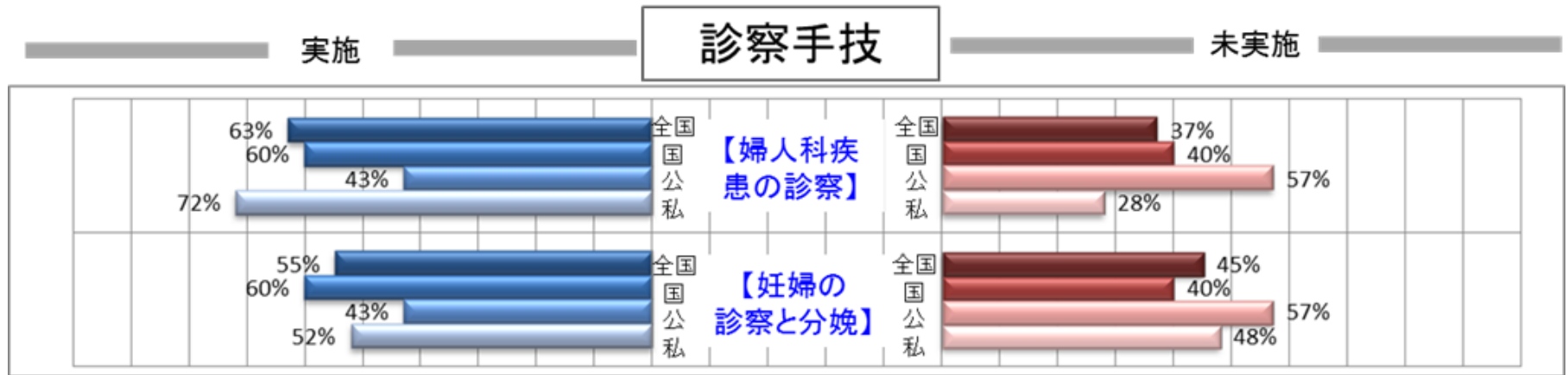
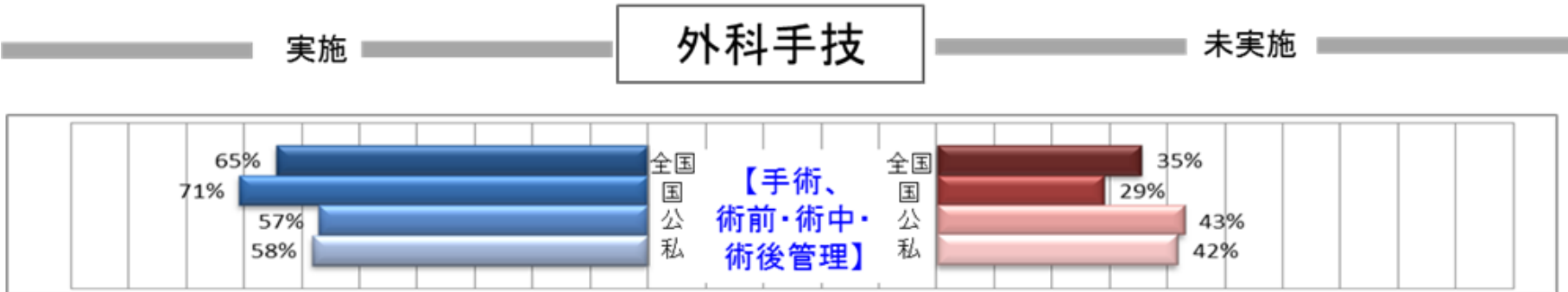
手技別にみると一般手技が最も未実施の細目が多く(全国平均:40~60%)、この傾向は公立で高い傾向を示していた。

Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(2) レベルⅡ



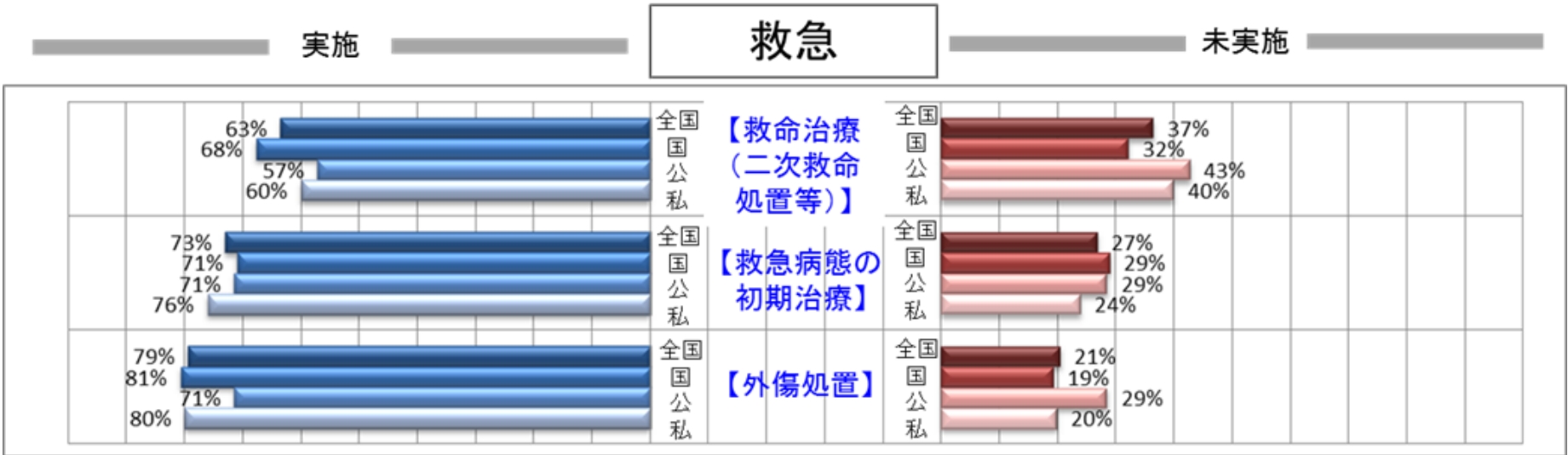
検査手技では30～40%の細目が未実施である。

Ⅲ. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(2) レベルⅡ



外科、検査手技では30～40%の細目が未実施である。

III. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(2) レベルⅡ

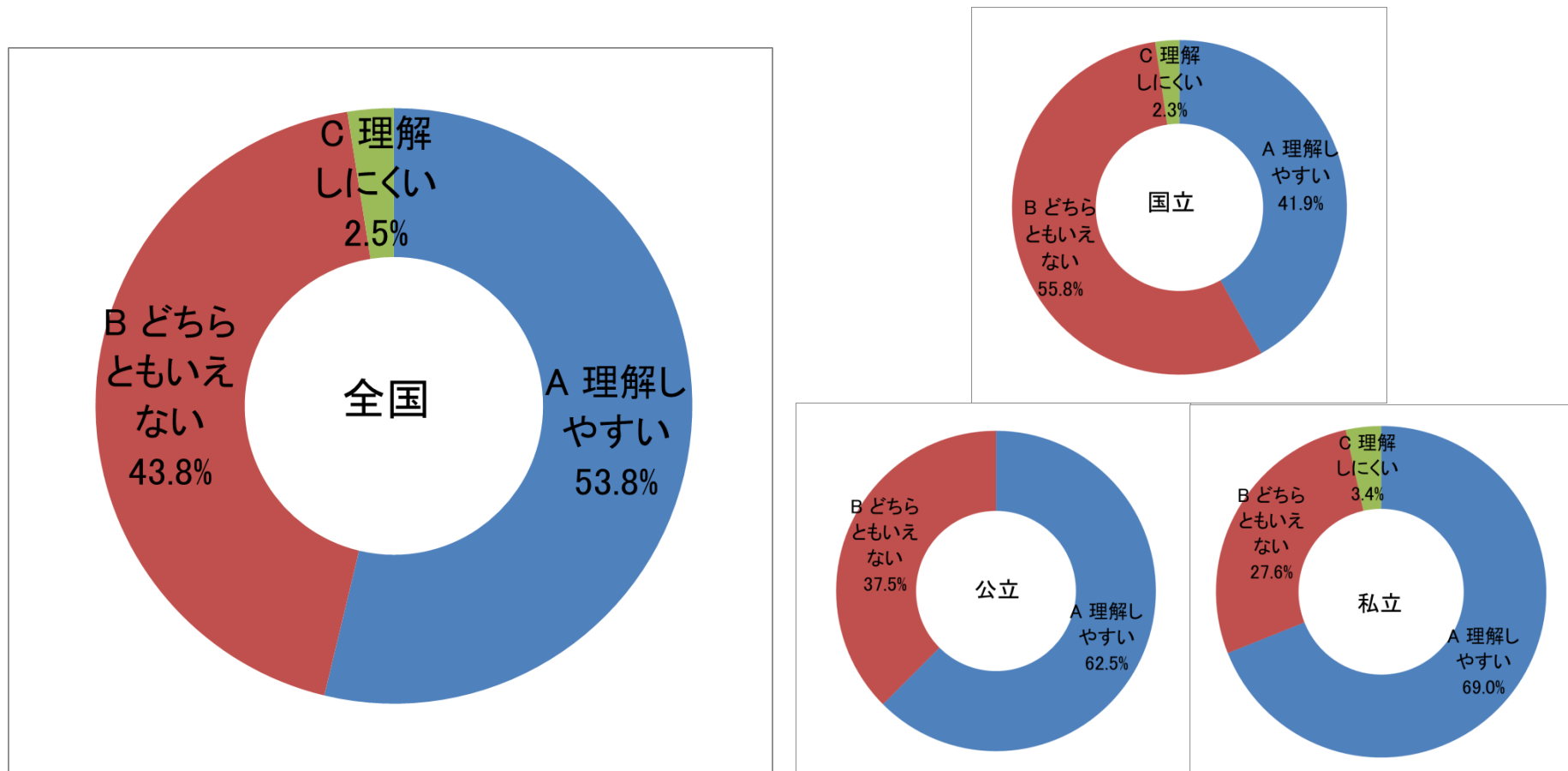


救急では20～30%の細目が未実施である。

医行為レベルⅠ,Ⅱにおける未実施の細目については、個々の手技実施上の問題点を検証し、今後の改善への努力が必要である。

III. 医学生の臨床実習における医行為と水準について(3)

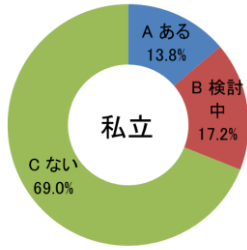
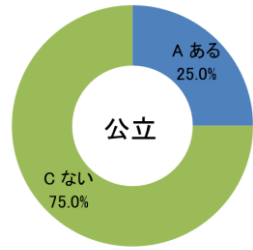
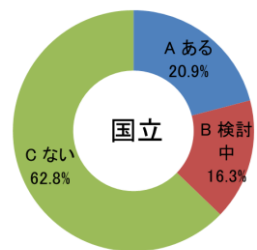
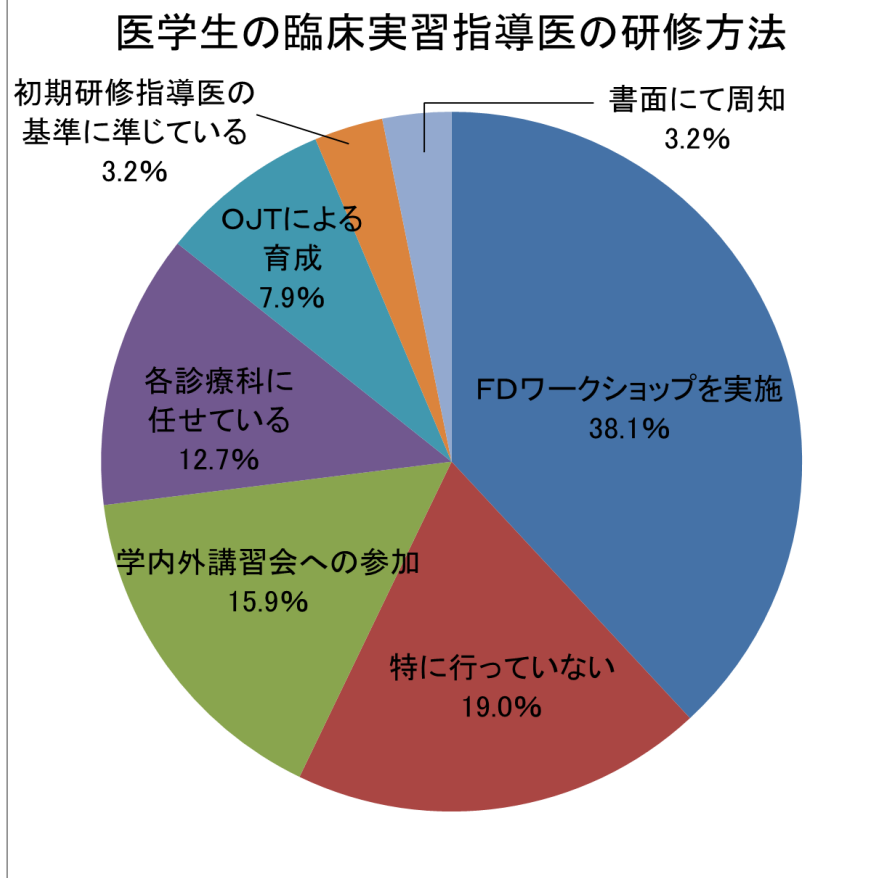
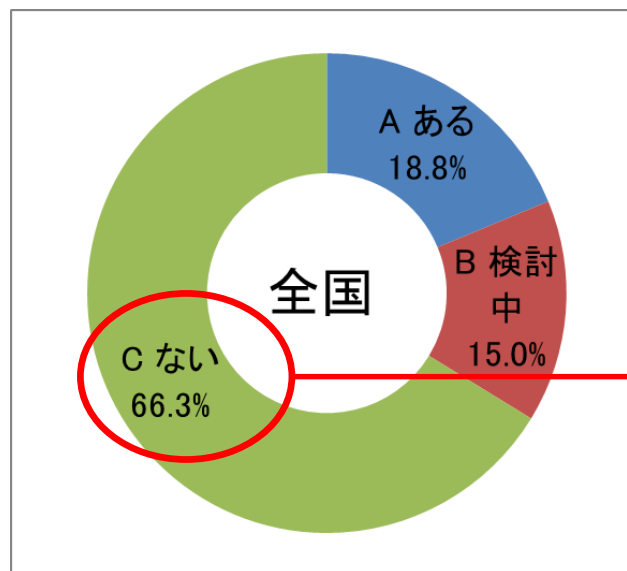
本ガイドラインの医行為(レベル I・II)の評価



過去の報告(前川レポート、福井・吉田試案、コア・カリなど)と比較して、本ガイドラインの医行為水準は全国平均53.8%の大学が理解しやすいと回答している(国立:41.9%、公立:62.5%、私立:69.0%)

IV. 医学生の実臨床実習の指導医について

医学生の実臨床実習の指導医について、資格上の規定がありますか



指導医について多くの大学では(全国平均:66.3%)資格上の規定はないとしている。しかし、指導医は医学部長・病院長により臨床研修指導医もしくはそれと同等の経験者が任命される。また、規定がないとしても54.0%の大学においてFDワークショップや学内外講習会への参加や研修を行っている。

V. 医学生の実習の評価について

臨床実習開始前に共用試験(CBT・OSCE)以外に独自の評価試験の実施有無

	全国	国立	公立	私立
回答校	80	43	8	29
A はい	13 16.3%	6 14.0%	0 0.0%	7 24.1%
B いいえ	67 83.8%	37 86.0%	8 100.0%	22 75.9%

診療参加型臨床実習の開始許可証明書の認知度

	全国	国立	公立	私立
回答校	80	43	8	29
A 知っている	69 86.3%	39 90.7%	4 50.0%	26 89.7%
B 知っているが申請していない	5 6.3%	2 4.7%	1 12.5%	2 6.9%
C 知らない	6 7.5%	2 4.7%	3 37.5%	1 3.4%

- 多くの大学で、実習開始前に共用試験(CBT,OSCE)以外に独自の評価を実施していない(全国:83.8%、国立:86.0%、公立:100.0%、私立:75.9%)。
- 全国医学部長病院長会議からの「診療参加型臨床実習の開始許可証」の発行は、全国92.6%(国立:95.4%、公立:62.5%、私立:96.6%)の大学で認識されている。

VI. 臨床実習を行う医学生の呼称について

医学生の呼称

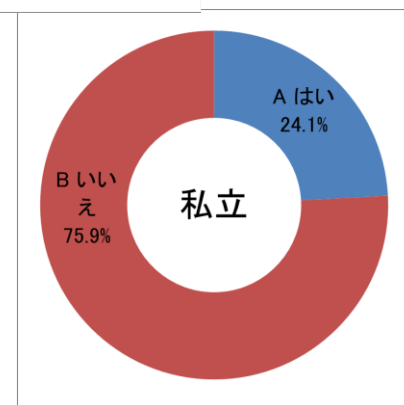
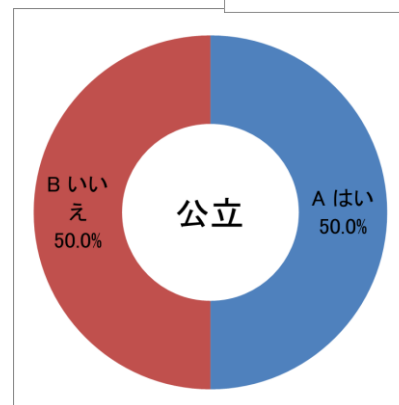
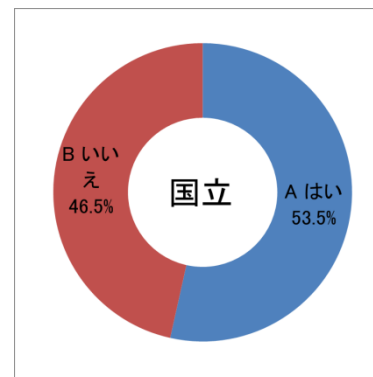
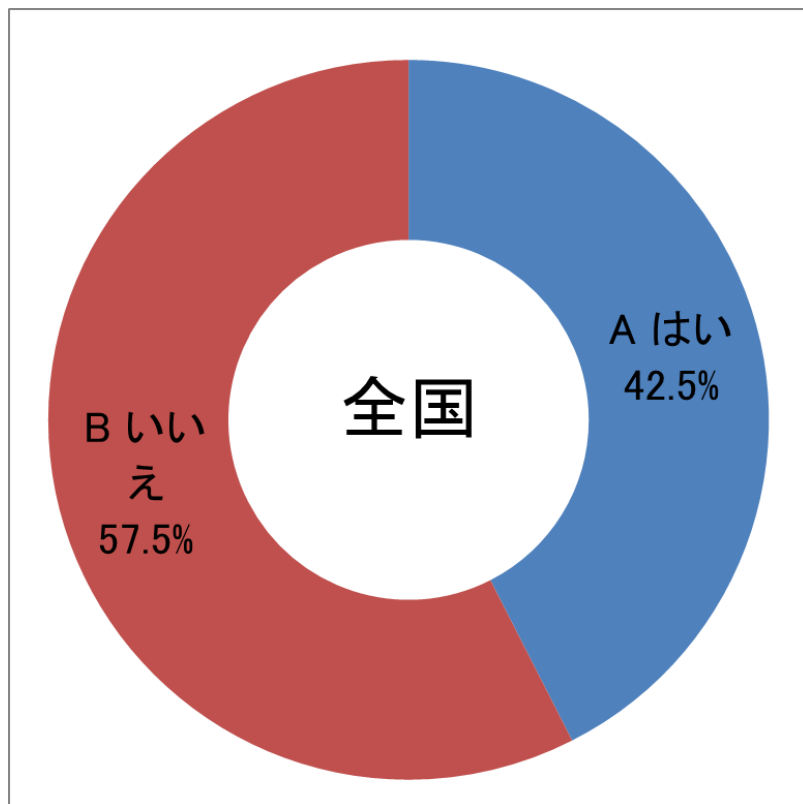
	全国	国立	公立	私立
回答校	80	43	8	29
A Student Doctor あるいはスチューデント・ドクター	64 80.0%	34 79.1%	6 75.0%	24 82.8%
B その他の呼称	16 20.0%	9 20.9%	2 25.0%	5 17.2%
(再掲) 臨床実習生	5	4	1	0
学生	5	2	0	3
その他(呼称未回答含む)	6	3	1	2

呼称についての意見の有無

	全国	国立	公立	私立
回答校	80	43	8	29
A ある	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.9%
B ない	78 97.5%	43 100.0%	8 100.0%	27 93.1%

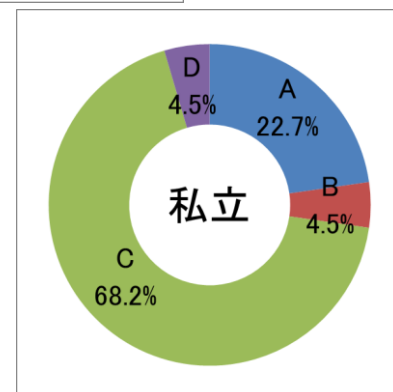
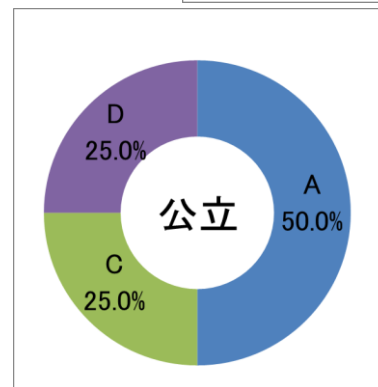
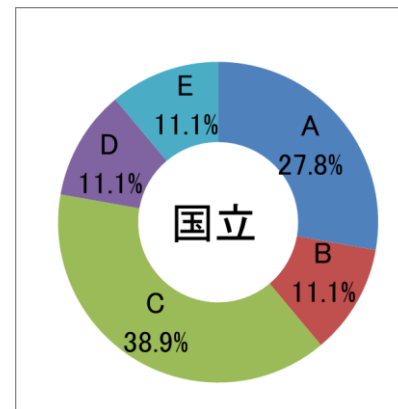
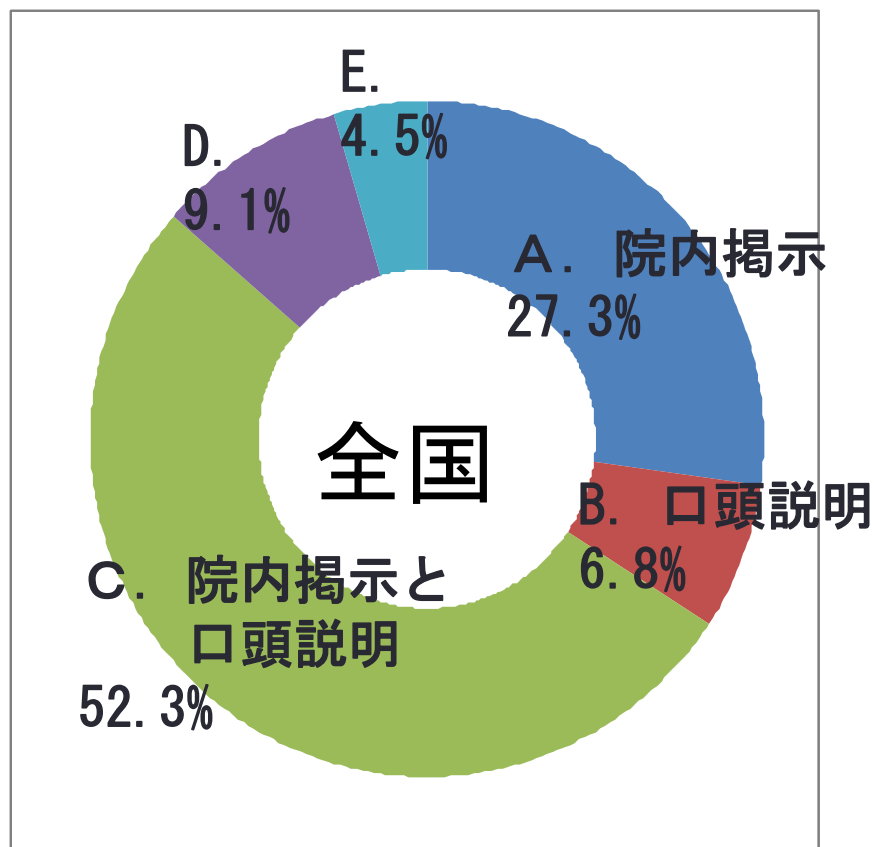
国内80%の大学がStudent Doctorあるいはスチューデント・ドクターの呼称を使用しているが、97.5%の大学で患者・家族からの意見を受けていない。

VII. 臨床実習同意書について(1) 包括同意書取得の有無



国内57.5%の大学において包括同意書が取得されていない。
(国立:46.5%、公立50.0%、私立:75.9%)

VII. 臨床実習同意書について(2) 包括同意書の代替策



- D. 通常は院内掲示、特別な必要性が生じた際には同意書を取得
E. 院内掲示も口頭説明も実施していない

包括同意書を取得していない場合、多くの大学では院内掲示(全国:27.3%、国立:27.8%、公立:50.0%、私立:22.7%)もしくは院内掲示と口頭説明を行っている(全国:52.3%、国立38.9%、公立:25.0%、私立:68.2%)。

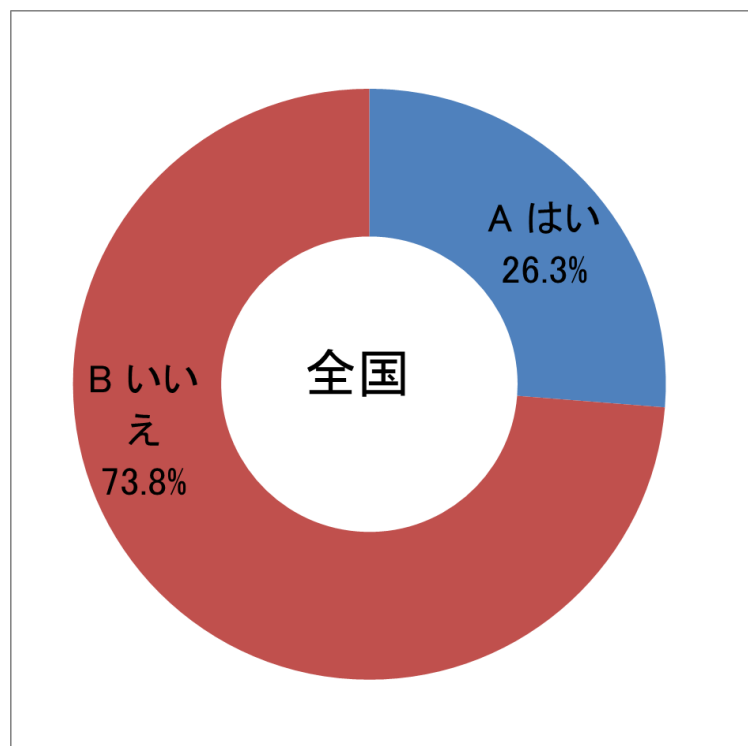
VII. 臨床実習同意書について(3)

包括同意書取得における本ガイドライン例示の評価

	全国	国立	公立	私立
回答校	33	22	4	7
A 有用	31 93.9%	22 100.0%	4 100.0%	5 71.4%
B 改善の必要がある	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%

- 包括同意書取得に際して、本ガイドラインに書かれた例示は93.9%の大学において有用であった(国立:100.0%、公立:100.0%、私立71.4%)。
- 改善の必要があると回答した大学からは、「文字が多くて患者が読む気無くすのではないか」「患者に渡す文章としては、難解な箇所がある」等の意見があった。

VII. 臨床実習同意書について(4) 個別同意書取得の有無



【個別同意書についての自由意見(抜粋)】

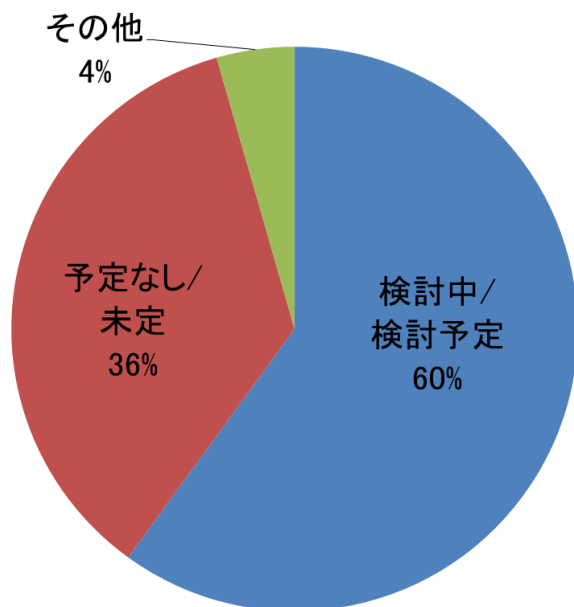
- ・ 外来初診患者はその性質上、学生が長期間の「受け持ち」にはならないので個別同意の対象にはなりにくく、個別同意の対象は殆どが入院患者である。個別同意取得率は本学で調査対象とした3科(内科、外科、麻酔科)でいずれも90%を超えている。
- ・ 包括同意と共に個別同意についても積極的に取得していく方向で検討中。

個別同意書は国内73.8%の大学で取得されていない。

包括同意書を含め、同意書取得に関しては臨床実習指導者、患者主治医、看護師、事務職員を含めた臨床実習現場担当者からの声を反映した実習現場での問題点を十分検証し、より良き改善に向けた努力が必要である。

VII. 臨床実習同意書について(5) 個別同意書取得の予定

個別同意書取得の予定



【個別同意書についての自由意見(抜粋)】

- ・ 診療科により同意を得ている場合もあるため、基準の統一を行っていく予定である。
- ・ 現在の口頭での承諾とその旨のカルテ記載とする。
- ・ 個別同意書の書式は用意してあり必要に応じて取ることになっているが、実際に取りられたケースはない。

個別同意書を取得していない大学のうち60%が今後の取得を検討中/検討予定であった。

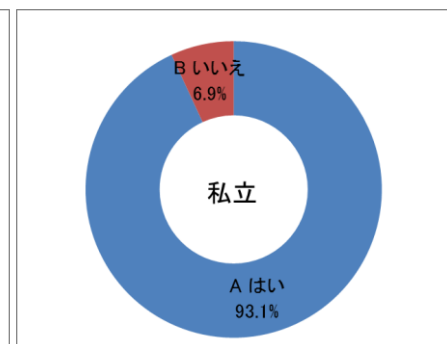
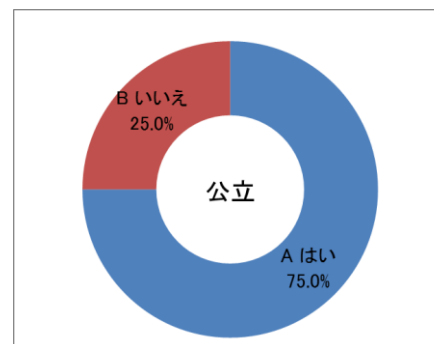
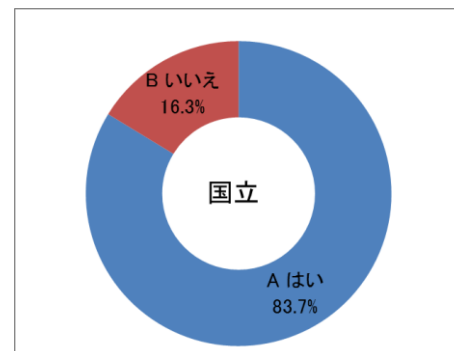
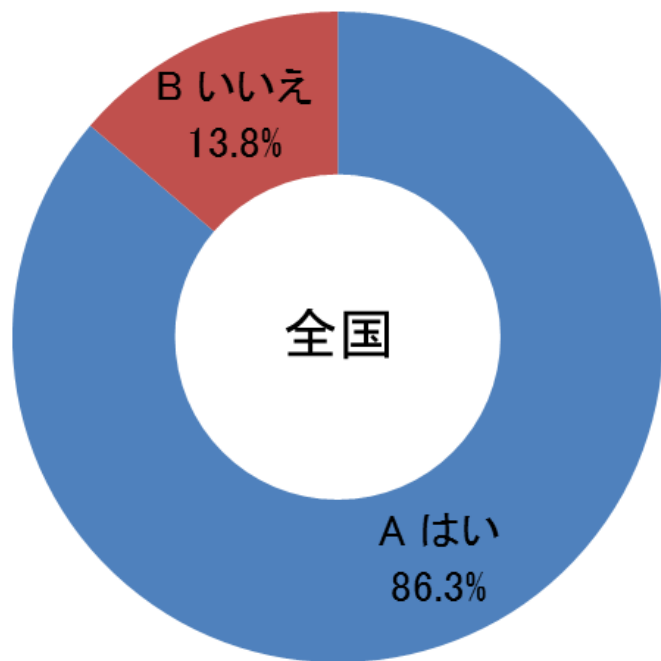
VII. 臨床実習同意書について(6)

個別同意書取得における本ガイドライン例示の評価

	全国		国立		公立		私立	
回答校	21		13		1		7	
A 有用	18	85.7%	12	92.3%	1	100.0%	5	71.4%
B 改善の必要がある	3	14.3%	1	7.7%	0	0.0%	2	28.6%

- 個別同意書を取得するに際しては、本ガイドラインは85.7%において有用であった(国立:92.3%、公立:100.0%、私立:71.4%)。
- 改善の必要があると回答した大学からは、「例示が患者に圧迫感を与えかねない」「患者に渡す文章としては、難解な箇所がある」等の回答があった。
- しかし、同意拒否等の報告は今回のアンケート集計では見られなかった。

VII. 臨床実習同意書について(7) 学生の誓約書取得の有無

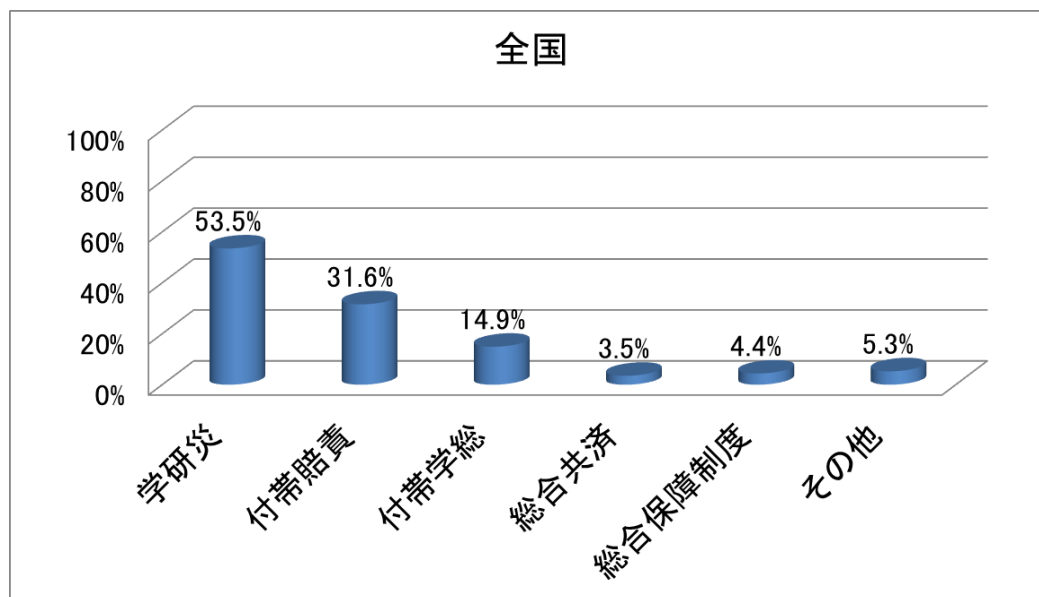


学生からの誓約書は大多数の大学で実施されている。
(全国:86.3%、国立:83.7%、公立:75.0%、私立:93.1%)

VIII. 医療事故の補償について

	全国		国立		公立		私立	
回答校	80		43		8		29	
A 加入している	79	98.8%	42	97.7%	8	100.0%	29	100.0%
B 検討中	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
C 加入していない	1	1.3%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%

加入している保険の名称



※複数回答のため、比率の合計は100%にならない

国内の全国大学のうち1校を省き全ての大学において何らかの補償制度に加入している(平均98.8%)。この際学生教育研究災害傷害保険への加入が最も高い(全国:53.5%)。